天明狂歌・狂文作者索引総覧稿 その一

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2000-03-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 石川, 了 メールアドレス: 所属:
URL	https://otsuma.repo.nii.ac.jp/records/1402

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

天明狂歌・狂文作者索引総覧稿 ―その一―

石川　了

凡例

一、本稿は天明期成立または刊行の江戸狂歌・狂文七十一種に、天明狂歌作者を主とする貼交と名鑑類、それに関連資料を加えた総計八十余種に見える狂歌・狂文作者と画者、並びに狂歌の題中と狂文中の関連人物名（ただし狂歌壇と縁のある特定可能人物に限定）を各作品ごとにまとめようとするもので、最終末尾にはその総合索引を付す。

一、各作品には、総合作索引用として二文字の略称を【　】内に付記した。

一、各作品の解題は書誌的事項を中心に各作品冒頭にまとめ、底本（翻刻を含む）を明示した。

一、底本が翻刻の場合は原本に当たり直すことを原則とし、誤植等がある場合はこれを断ることなしに改めた。

一、各作品中の掲載順序は原則として、「序者」、「序中」、「跋者」、「跋中」、「画者」、「画中」、所収「狂歌」作者、同「狂文」作者、狂歌の「題中」、狂文の「文中」等の順とした。

一、人名はそれぞれ五十音順に記したが、「狂歌」作者と一部「画者」については、各冒頭に内訳としてその歌数別また

は画図数別の人数構成を示し、次いで人名を所収数の多い者から五十音順に記した。

一、同一作品中で同一人物が複数の形で表記されている場合は、問題のない濁点の有無を除き、見出し表記以外のすべてを（　）内に併記した。

一、可能な限り印文中の名も採録した。

一、四角で囲った表記はたとえば、前は前号およびかつての号、印は印文中の名、所は国付けを含む所付け等、年は年齢、女は狂名に「女」と注記がある者、業は生業、忌は追善や年忌等、連はグループ名、柱は柱刻、像は肖像画、といった意味であるが、同様の他の表記については、一々説明はしないが理解に誤解が生じないように配慮した。

一、入集狂歌数（便宜上、長歌等も狂歌一首として数えた）や画図数等は算用数字でこれを示した。

一、「題中」「文中」の索引では、その人名が出ている題の狂歌作者名または狂文作者名を、所載巻（数）名または部立名（いずれも四角で囲った）とともに［　］内に記した。

一、その他各作品特有の事項については、その解題中にふれることとした。

Ⅰ　狂歌・狂文篇

1　初笑不琢玉【初笑】

天明元年正月（推定）・刊本

原本未見。底本は「みなおもしろ」第四巻第十号～同拾弐号、第五巻第弐号、同参号（大正九年一月～三月、五月、六月）掲載の複製。右第十号彙報欄（筆者名不記載）と「狂歌書類解題（一）」（「可良毛裳」第一号、大正七年八月。筆者名不記載）によれば、刊本一冊で書名は「狂歌不琢玉」ともあるが、両書名とも根拠不明。浜辺黒人編。構成は序文一丁、本文十九丁、跋文一丁、以上全二十一丁。序文は末に「四方赤良」、跋文は末に「辛丑

（天明元年）　四谷／橘洲」。挿絵画者は丹青洞恭円等（詳細は左記索引参照）。刊記はないが、天明元年の歳旦狂歌集である（拙稿「浜辺黒人による江戸狂歌の出版―天明一、二年前後を中心に―」〈「大妻女子大学文学部三十周年記念論集」、平成十年三月〉参照）。右複製によれば、柱「〇不琢玉　丁付（序、一～二十）　＝昌嘉堂」。書型も不明だが、野崎左文の透き写しと思われる写本（他の写本二書と合綴の大本一冊、慶應義塾大学図書館蔵。書名は序の匡郭外に「初笑不琢玉」と付記）によれば、本文匡郭縦十七・六糎、横十一・七糎。なお右複製は丁付「十七」の丁を誤って漏らしたことに後で気づいたらしく、同丁一丁分のみを最末尾に付す。翻刻はない。

編者　浜辺黒人

序者　四方赤良　　**序中**　行風、浜辺の黒人（所芝）、未得

跋者　橘洲（所四谷）　　**跋中**　浜辺黒人

画者　内訳6図1人、2図3人、1図8人、以上12人20図と画者名不記載9図

丹青洞（丹青、恭円、印丹青）6、亀三2、黒人（年六十四翁）2、碧山（印松月）2、一之1、玉芝1、金仙1、呉竹1、王人1、沙光1、青峰1、四方赤良1、不明9

内訳9首1人、5首1人、4首1人、3首5人、2首8人、1首11人、以上27人60首

浜辺黒人（はまへの黒人、黒人）9、嚢庵鬼守（鬼守）5、きのたらんと4、橘貞風（夷曲庵橘貞風）3、桃境亭羽岡（羽岡）3、隣海（隣海法師）3、隣魚3、隣笛3、鬼崛採瘤2、橘洲2、沙光2、春鶴2、大狂僧自隠2、貞也（所小田原）2、碧山（印松月）2、四方赤良2、亀三1、紀のやしなふ1、耳有君1、丹青洞1、南芝1、巴竜1、璠舎1、芙山1、堀辺のさむ人1、万作1、物部の疎1

狂歌題中　四方赤良（赤良、所牛こみ）［浜辺黒人歌2］

2 興哥めざし艸【興歌】 天明二年正月・刊本

底本は大妻女子大学蔵半紙本一冊。原題簽「興哥めさし艸 全」、内題「興歌めさし艸」。序文によれば一風子集、丹青洞恭円編。構成は口絵半丁、序文一丁半、本文（四季・恋・雑）三十四丁半、刊記（広告を含む）半丁、以上全三十七丁。序文は末に「時に／あめあきらかなるふたつむつまし月自／序／丹青洞／恭円」。口絵は雪江書、挿絵画者は丹青洞恭円等（詳細は左記索引参照）。刊記「天明戊寅（ママ）孟春／芝神明前／彫工　上村仙斧／同所／書林　泉屋市兵衛」。刊記左側に広告「近刻／興歌花鳥風月／興哥恋のも、艸」。柱はなく、各丁裏のノドに丁付「序一、序二、第一、二～二十、廿一、廿二、二三～二九、三十、三一～三五」。大妻女子大本と同板の九州大学文学部蔵本を底本とした翻刻が『江戸狂歌本選集』第一巻（本作担当久保田啓一氏、平成十年、東京堂出版）に収まる。なお本作では序文末尾に序文清書者名があるので、その名を便宜上「序中」に採録した。

編者 一風子集、丹青洞恭円編

序者 丹青洞（印恭円、印丹青洞）　**序中** 一風子（所芝）、二字堂等非（印冊・生）

画者 内訳 3図1人、1図1人、以上2人4図と画者名不記載11図

丹青洞（恭円、印恭円）3、雪江（印、印思孝）1、不明11

画中 貞徳（像）［雪江画］

狂歌 内訳 31首3人、28首1人、17首1人、13首1人、11首2人、9首1人、7首2人、5首1人、3首2人、2首2人、1首15人、以上31人226首

夷曲庵貞風（貞風）31、此君斎芙山（此君斎）31、丹青洞恭円（丹青洞）31、大木戸ノ黒牛（大木戸黒牛、黒うし、黒牛）28、蜑ノ苅藻（蜑の苅藻、苅藻）17、大狂僧自隠（自隠）13、打藁屑男（屑男）11、紀ノたらんと（紀のたらんと、紀たらんと）11、芝為則斎（為則斎）9、塩竈斎有年（有年）7、滝本ノ糸磨（滝本糸磨、糸丸）7、大

雪堂腥風（腥風）5、一風斎3、柴田風舐（風舐）3、燕子2、巴竜2、宇津波1、雲姑1、芥堂藁1、哥楽女1、鳩口1、愚連1、吾民1、西岳1、石夫1、玉笥一橘1、つくしの西男1、貞徳1、とせ女1、美佐女1、楽山道人1

題中　橘貞風［雑］屑男歌］

3　詠指頭画狂哥并序【指頭】　天明二年四月二十日成・写本

底本は静嘉堂文庫蔵の四方赤良編『栗花集』半紙本二巻二冊（序文末に「あめあきらけき五つのとし／墜栗ちかき卯月の末／四方やまひと」、跋文末に「天明戊申季夏　巴人亭かきつ」）のうちの第一冊目（巻一）所収。題名は巻一目録による（序題は「哥」が「歌」である他は同じ）。赤良自筆で墨付四丁半（うち序文〈末に「賀邸」〉一丁半、本文〈題「指頭画」〉三丁）。編者（主催者の中心人物）は、底本の本作墨付第三丁目と第四丁目が正しくは逆順であること（拙稿「橘洲・赤良と三囲稲荷狂歌会」〈「東海近世」第十号、平成十一年五月〉参照）を考えれば、本文末尾に入集している四方赤良であろう（ただし赤良は当日の参集を欠席している）。成立は同じ日に催された「4　三囲社頭奉納狂哥」の本文末に「時天明二年壬寅四月廿日也」とあることによる。柱、丁付ともになし。静嘉堂本を底本とした『栗花集』全体の翻刻が『江戸狂歌本選集』第二巻（同作担当石川了、平成十年、東京堂出版）に収まる。

編者　四方赤良（推定）

序者　賀邸　　**序中**　あけらかんこう、へつゝ東作、よものあから

狂歌　［内訳］1首23人、以上23人23首

あけら菅江1、蛙面坊1、以勢たらう1、置来1、賀邸1、から衣橘洲1、草屋師鯵1、軽少なこん1、さんきあ

りまさ1、十二栗圃1、智恵のないし1、ぬけうらの近道1、野見直寝1、秦玖呂面1、はまへの黒人1、一文字の白根1、ふるせの勝雄1、へつゝ東作1、めうかのあらせ1、もとの木あみ1、ものことの明輔1、藪の内のつはき1、四方の赤良1

4　三囲社頭奉納狂哥【三囲】　天明二年四月二十日成・写本

底本は静嘉堂文庫蔵の四方赤良編『栗花集』（「3　詠指頭画狂哥并序」解題参照）第一冊目（巻一）所収。題名は巻一目録による（本文前の題名は「同日社頭奉納狂哥」）。四方赤良自筆で墨付二丁半（題「指頭画」）。編者は本文末尾に入集している赤良であろう。成立は本文末に「時天明二年壬寅四月廿日也」とあることによる。柱、丁付ともになし。静嘉堂本を底本とした『栗花集』全体の翻刻が『江戸狂歌本選集』第二巻（同作担当石川了、平成十年、東京堂出版）に収まる。

編者　四方赤良（推定）

狂歌　内訳　1首18人、歌ナシ1人、以上19人18首

あけら菅江1、橘洲1、くさやの師鯵1、軽少納言1、鹿津部真顔1、十二栗圃1、智恵内子1、ぬけうらの近道1、野原雲輔1、野見直寝1、秦（ハタノ）玖呂面1、一文字白根1、古せの勝雄1、へつゝ東作1、もとの木阿弥1、物事明輔1、藪中椿1、四方赤良1、算木有政0

5　団扇合図并狂哥【団扇】　天明二年四月二十日成・写本

底本は静嘉堂文庫蔵の四方赤良編『栗花集』（「3　詠指頭画狂哥并序」解題参照）第一冊目（巻一）所収。題名は巻一目録による（本文前の題名は「壬寅四月廿日三囲稲荷団扇合図」）。赤良自筆で墨付九丁半（うち団扇合図五

丁、狂歌四丁半）。編者不明だが、本文末尾に入集している一文字白根か。挿絵画者は明輔等（詳細は左記索引参照）。成立は本文前の題名による。同じ日に行われた「3　詠指頭画狂哥并序」と「4　三囲社頭奉納狂哥」の余興的な催しであろう。柱、丁付ともになし。静嘉堂本を底本とした『栗花集』全体の翻刻が『江戸狂歌本選集』第二巻（同作担当石川了、平成十年、東京堂出版）に収まる。

編者　不明

画者　内訳　2図4人、1図24人、以上28人32図と画者名不記載1図

明輔（あけすけ）2、くさやのもろあち（もろあち）2、しかつべまがほ（真顔）2、秦くろつら（黒つら）2、あけら菅江1、あせ道1、蛙面坊1、ありたけ1、有政1、かつほ1、橘洲1、雲輔1、軽少納言1、小鍋みそうづ1、直寝1、近道1、つばき1、東作1、内子1、ねりかた1、浜辺黒人1、一文字しろ根1、本屋の安うり1、めうかのあらせ1、木あみ1、ものやな1、四方赤良1、栗圃1、不明1

狂歌　内訳　3首1人、2首4人、1首20人、以上25人31首

しかつべのまがほ（しかつべ真顔）3、くさやの師鯵2、秦玖呂貫（秦くろつら）2、へつゝ東作2、物事ノ明輔（ものことの明輔）2、あけら菅江1、蛙面坊1、川井ノ物梁1、軽少なごん1、小鍋のみそうづ1、算木有政1、地口有武1、十二栗圃1、ちゑの内子1、ぬけうら近道1、野原雲輔1、野見直寝1、畠畦道1、浜辺黒人1、一文字白根1、古せ勝雄1、本屋安うり1、めうがのあらせ1、もとの木あみ1、四方赤良1

6　百首馬鹿【百馬】　天明二年九月序・写本

底本は静嘉堂文庫蔵の四方赤良編『栗花集』（「3　詠指頭画狂哥并序」解題参照）第二冊目（巻二）所収。題名は巻二目録による（序題も同じ）。詠者は木室卯雲。卯雲自筆で墨付十三丁（うち表紙一丁、序〈末に「于時天明二

年とらの長月　白鯉〉二丁、本文十丁）。柱、丁付ともになし。静嘉堂本を底本とした『栗花集』全体の翻刻が『江戸狂歌本選集』第二巻（同作担当石川了、平成十年、東京堂出版）に収まる。

編者　木室卯雲詠
序者　白鯉（印半山）　**序中**　都山翁（所駿台）
狂歌　木室卯雲98

7　市川鼠扇江戸花海老【海老】　天明二年十一月跋・刊本

底本は大東急記念文庫蔵小本一冊。原題簽「市川鼠扇江戸花海老　全」、内題「市川江戸花海老」。四方赤良編（推定）。構成は序文一丁半、請取状一丁、口絵半丁、狂文十一丁（挿絵半丁を含む）、狂歌六丁、跋文二篇（二丁と半丁）二丁半、刊記（広告を含む）半丁、以上全二十三丁。序文は末に「天明壬寅周の春　四方山人」。跋文二篇はそれぞれ末に「へいけんや東作」、「壬寅仲冬朔旦　一文字」。請取状は末に「十月廿六日／成田屋七左衛門／四方御連中様」。挿絵画者は口絵には記載がなく、狂文中のものは宗角十三才書。刊記「神田鍋町西横町／本屋清吉」。刊記右側に広告「三諧道花道案内　両面摺／枕春の寝覚　引哥狂歌入　全近刻／一言奇談　全近刻／狂歌読方浜のきさご　四方赤良序　もとのもくあみ著　両面摺／（一行分墨格）」。柱はなく、各丁裏のノドに丁付「ナシ、二～七、ナシ、九～十七、ナシ、ナシ、廿、二十一、廿二、ナシ」。大東急記念文庫本を底本とした翻刻が『大田南畝全集』第一巻（本作担当浜田義一郎氏、昭和六十年、岩波書店）に収まる。

編者　四方赤良（推定）
序者　四方山人　**序中**　海老蔵、東牛子、成田屋（所住吉町）
請取　成田屋七左衛門　**請取中**　海老蔵

跋者 印へいけんや東作

跋者 一文字

画者 宗角（年十三才）1、画者名不記載1　**画中** 海老蔵（像）［画者名不記載画］

狂文 四方赤良（推定）1

文中 あから（所山の手）、朝手（所浅草）、あぜ道（所すきやがし）、油とうじねり方（所すきやがし）、あめん坊（所四ツ谷）、一気行なり（升屋、所洲崎）、今富久（所神田）、馬貫（所山の手）、梅の花笠（所蔵前）、雲楽斎（所山の手）、ゑい夫人（所吉原）、海老蔵（前徳蔵）、大井のむさと、大木戸黒牛（所品川）、大屋裏住（所本町）、鬼守（所日本橋）、おも梶似足（所柳ばし）、かきのぬけ殻（所深川）、風早のふり出し（所住吉町）、貸本人和流（所神田）、かつほ（所四ツ谷）、蟹子丸（所本所）、亀（徳蔵母）、川井物梁、菅江（所山の手）、菊の声色、橘洲（所四ツ谷）、きねやのせん旨（所薬研堀）、紀定丸（所山の手）、暁月房、軽少ならん、行風、子の子の孫彦（所小川町）、酒盛入道（所日本橋）、さくらのはね炭（所神田）、酒の上のふらち（恋川はる町）、酒茂成保、沢辺帆足（所小川町）、算木有政（所すきやがし）、しかつ部真顔（所すきやがし）、地口有武（所小川町）、白人、末広（所浅草）、素庭（所下谷）、竹つゑ為軽（森羅万象）、竹藪（所山の手）、玉だれの小亀、団十郎（元祖、幼海老蔵）、丹青洞（所芝）、ちゑのないし、長頭丸、通小紋のいき人、つくつく法師（所下谷）、つくばね（所築地）、手がらの岡もち、のみの直寝（所日本橋）、婆阿上人（所橋場）、栢筵（二代目団十郎、前海老蔵）、秦黒つら（所すきやがし）、花道のつらね（五代目団十郎、今三升、前海老蔵）、浜辺黒人（所芝）、はやがき（所下谷）、腹からの商人（所本町）、板木ほり安（所神田）、昼おき（所すきやがし）、ふし原の中貫（所小川町）、へづゝ入道（所四ツ谷）、卯雲（所下谷）、卜川（所築地）、卜養（所築地）、松風（所山の手）、まん作（所四ツ谷）、まん丸（所山の手）、みさうづ（所麻布）、三十一文字（所日本橋）、三升（四代目団十郎、

前 海老蔵）、むき躬（所 日本橋）、無銭（所 本所）、もとの木あみ（落栗庵）、物事明すけ（所 すきやがし）、師鯵、藪のいと成（所 浅草）、雄長老、好田の清好（所 目黒）、よみ人しれた（所 山の手）、栗圃（所 麹町）、隣海法師（所 芝）

狂歌 作者不明40

8 狂歌栗の下風【下風】 天明二年十一月序・刊本

底本は国立国会図書館蔵大本一冊（宝暦七年序の伏見屋善六印本『吾吟我集』と合綴）。原題簽欠、内題「狂歌栗の下風」、序題「栗の下風」。浜辺黒人編。構成は序文一丁、口絵（賛のみの部分を含む）一丁、本文二十三丁、漢文跋一丁、以上全二十六丁。序文は末に「壬寅仲冬朔日　四方山人しるす」、漢文跋は末に「一文字白根題」。口絵画者は記載がない。刊記を欠くが、内容は安永九年正月から天明三年春にかけての摺物二十二会分を収める（拙稿「浜辺黒人による江戸狂歌の出版―天明一、二年前後を中心に―」〈「大妻女子大学文学部三十周年記念論集」、平成十年三月〉参照）。ただし『割印帳』によれば、天明三年正月刊で板元売出し花屋久次郎。なお国会本には五会分（五丁）落丁の可能性を右拙稿で指摘しておいたが、九州大学古典籍調査委員会（代表・松原孝俊同大教授）の一員としてソウル大学蔵本を調査された久保田啓一氏の御教示によれば、ソウル大本も同じ箇所を欠いており、「15 狂哥猿の腰かけ」と同じ刊記半丁（三河屋利（ママ）兵衛と花屋久治郎の連名。刊年記載はなく、広告を付す）が備わる由である。柱があるのは序文一丁（魚尾のみ）と本文最初の四丁（「栗の下風　丁付〈㊀～㊃〉」）だけで、他の丁はノド側を含めて丁付もない。国会本を底本とした翻刻が『江戸狂歌本選集』第一巻（本作担当石川了、平成十年、東京堂出版）に収まる。なお本作中には編者黒人による投吟募集文が四箇所に見えるので、その中の人名を便宜上「文中」として採録した。

編者　浜辺黒人
序者　四方山人
跋者　一文字白根（印岩付散人、印野平）　**跋中**　浜辺黒人（名孟雅、字子頌、氏斯波）
画者　画者名不記載1　**画中**　石田未得（像）
狂歌　内訳　47首1人、36首1人、28首1人、25首1人、22首2人、19首1人、17首1人、16首2人、15首2人、13首1人、12首1人、10首3人、9首1人、8首3人、7首4人、6首3人、5首9人、4首4人、3首16人、2首22人、1首52人、以上131人617首

浜辺黒人（黒人）47、橘貞風（たちはな貞風、橘の貞風）36、紀たらんと（紀のたらんと、きのたらんど、たらんと、所浅草）28、嚢庵鬼守（嚢庵、ふくろ庵鬼守、鬼守、鬼もり、おにもり）25、空二22、沙光22、隣海法師（隣海）19、大木戸黒牛（大木戸の黒牛、黒牛、黒うし）17、丹青洞16、辻璠舎（璠舎）16、紀の保丸（きの保丸、きの安丸、きのやす丸、きのやすまる、きの安まろ、やす丸、安丸）15、碧山15、六誹園立路（六俳園立路、立路）13、南芝12、加倍仲塗（加陪中塗、加陪仲塗、加部の中塗、かへの中塗、かへの仲塗、かへ中塗）10、春鶴10、古家根継（石上古家の根継、ふる家のねつぎ、ふる家の根つぎ、ふる家の根継、古家のねつき、根継）10、祐穏（所目黒）9、此君斎芙山（此君芙山、芙山）8、酒句斎貞芳（貞芳）8、木陽（所品川）8、朱坂成笑（朱阪成笑、成笑）7、えなみ（ゑなみ、所日本橋）7、風舐（所虎門）7、楽只（前葵坂）7、青芝6、筑波根の峰依（つくはねの峰依、つくはねのみねより）6、肌の間ぬく（間ぬく、間貫）6、燕子5、桐葉の秋嗣（桐のはの秋嗣、桐の葉の秋つぐ、秋つぐ）5、大狂僧自隠（大狂僧自姪、自隠）5、貞也（所小田原）5、田機（所月洲、所日本橋）5、明中（所神田）5、目黒臍垢（臍垢）5、釐井（所赤坂）5、隣魚5、島の笑猿（嶋の笑猿）4、耳有4、一もしの白根（ひともじの白根）4、ひなつる4、有年（所品川）3、遅辺有祐3、鬼降（鬼ふる）3、

覚蓮坊目隠（かくれん坊目隠）3、紀のつかん人（きのつかん人）3、くれ竹（くれたけ）3、高野白人（白人）3、杉山3、下部の赤奴（下部の赤ぬ、あかぬ）3、墨染のこもん（すみ染のこもん、女）3、釣狐3、月夜釜ぬし（月夜の釜主）3、富岳（所新川）3、糞屋黄人（糞屋の黄人）3、物ことの疎（ものことの疎キ）3、隣笛3、蜑の刈藻2、夷の島蛙（井の嶋蛙）2、以文2、打藁の屑男（打わらのくす男）2、浦辺白人（うらへの白人）2、傘の衛守（傘のゑもり）2、月汀2、耕子2、小梅文則（所本所）2、酔霞（所摂大坂）2、正多2、成礼2、楚桃2、長義2、田跡2、桃舎2、とさん（所日本橋）2、広麿2、富川2、古屋の軒盛2、隣鶴2、和文（所京都、所京）2、安孝1、石田未琢（二世）1、石田未得1、石田未陌（三世）1、現永賀1、英子1、荷月1、雅貞1、紙屑ノ籠耳1、鹿楽1、かはらの近道1、きてき1、久米（女）1、梧月（所谷中）1、根鬼1、西台1、坂の上飛則1、鷺丸1、左紅1、枝低1、釈道潮1、松風軒1、穡梅1、親羅1、政胤1、清風1、瀬智子（女）1、滝の本の糸丸1、知世居1、張弓1、貞昌尼1、典仙1、逃水1、兎十1、渡津（所とらの門）1、泊川1、白鯉（所下谷）1、巴竜1、万橋1、深家暮（所伊台原）1、ふくへ1、ふじひたい雛女1、不老庵1、文魚1、豊橋1、間ぬけ1、三輪1、村のをさ丸1、物部疎（所月洲）1、やえ（女）1、利長1、和水軒1

題中　石田未得［浜辺黒人歌］、菊之丞［石田未陌歌］

投吟募集文　浜辺黒人4　　**文中**　昌嘉堂（所芝）2、あみのはそん針兼、小島橘洲、卜養、未得、四方の赤良

9　狂歌若葉集【若葉】　天明三年正月・刊本

底本は大妻女子大学浜田文庫蔵大本二巻二冊。原題簽は上巻「（破損）若葉集（破損）」、下巻剥落（他本によれば「狂歌若葉集　上（下）」）、内題「狂歌若葉集　上（下）」。唐衣橘洲編。構成は序文二篇（各一丁）四丁、本文（上巻五十丁、下巻五十四丁）一〇四丁、刊記半丁（裏白紙）、以上（上巻五十四丁、下巻五十四丁半）全一〇八丁半。

序文二篇はそれぞれ末に「壬寅のとし／はしめの夏　から衣橘洲述」、「置来識」。刊記「天明三年癸卯正月穀旦／京二条通新町東江入／武村嘉兵衛／大坂心斉橋南壱丁目／敦賀屋九兵衛／江戸日本橋通三丁目／前川六左衛門／同四谷伊賀町／近江屋本十郎板」。刊記左上余白に広告「続若葉集　追刻」。柱は上巻「若序一（一）」、「序一（一）」、「〈はりう」、「一（～七）〈ちゆんけん」、「一（～三）〈くはんかう」、「一〈くろひと」、「二〈さたまる」、「三〈しろね」、「四〈ばてい」、「五〈きんかう」、「六〈ちかみち」、「〈卜仙無庵」、「〈眉けいせう」、「〈ほんしう」、「一（～七）〈ひくち」、「一（～五）〈いめい」、「一（二）〈まんさく」、「一（～三）〈あめんほう」、「一（～七）〈とうさく」、「壱（～六）〈もくあみ」、下巻「一（～六）〈あから」、「一（～四）〈知ゑのないし」、「一（二）〈あけすけ」、「〈くろつら」、「四〈ねりかた」、「〈畦常」、「六〈もろあち」、「七〈まかほ」、「八（九）〈ありまさ」、「一（～三）〈うとき」、「壱〈ふとき圃」、「二〈こふう」、「三〈いちろう」、「四〈野橘」、「五〈山四雄針野」、「六〈墨北鬼成一水浮田」、「七〈はねすみ」、「八〈ほはく」、「九〈椿松」、「十〈みたお」、「十一〈岡卜吾」、「十二〈馬騰秋」、「十三〈きてき」、「十四〈たゝみ」、「一（～四）〈かつを」、「一（～十二）〈から衣橘洲」、「一（三）〈から衣橘洲」、ナシ。東京都立中央図書館加賀文庫本を底本とした翻刻が『江戸狂歌本選集』第一巻（本作担当宇田敏彦氏、平成十年、東京堂出版）に収まる。

編者　唐衣橘洲

序者　から衣橘洲　　**序中**　蛙面坊懸水、ふる瀬のかつを、へつゝ東作、もとの木あみ

序者　置来　　**序中**　あめん坊、唐衣きつしう、ふるせのかつを、へつゝ東作、卜養、もとのもくあみ、油烟斎

狂歌　内訳　108首1人、57首1人、56首1人、52首1人、51首1人、44首1人、32首1人、31首1人、30首1人、24首2人、20首1人、19首1人、17首1人、16首2人、13首1人、12首2人、11首2人、10首1人、9首4人、8首1人、7首5人、6首3人、5首3人、4首4人、3首4人、2首11人、1首12人、以上69人840首

から衣橘洲108、へづゝ東作（柱とうさく）57、椿軒（柱ちゆんけん）56、樋口氏（柱ひくち）52、もとの木あみ（柱もくあみ）51、四方赤良（柱あから）44、渭明（柱いめい）32、知恵のないし（柱知ゑのないし）31、ふる瀬の勝雄（柱かつを）30、あけら菅江（柱くはんかう）24、蛙面坊（柱あめんほう）24、ものことの明輔（柱あけすけ）20、ものことのうとき（柱うとき）19、出来秋の万作（柱まんさく）17、きのさた丸（柱さたまる）16、算木あり政（柱ありまさ）16、古鉄の見多男（柱みたお）13、草や の師あち（柱もろあち）12、しかつへの真顔（柱まかほ）12、五風（柱こふう）11、浜辺黒人（柱くろひと）11、馬蹄（柱ばてい）10、紀廸（柱きてき）9、葉多の黒つら（柱くろつら）9、坡柳（柱はりう）9、本重（柱ほんしう）9、桜のはねすみ（柱はねすみ）8、一楼（柱いちろう）7、錦江（柱きんかう）7、弾琴舎蒲苗（柱ほはく）7、ぬけうらの近道（柱ちかみち）7、峰まつ風7、十二りつ圃6、ひともしの白根（柱しろね）6、藪のうちのつはき6、雲水無庵（柱無庵）5、橘枝5、望月の秋よし5、油のとうし練方（柱ねりかた）4、大泥のはね道4、三畳のたゝ見（柱たゝみ）4、野由4、けいせうならん3、畑野畦みち3、馬乳3、山手のある人3、大根ふとき（柱ふとき）2、おほふねの乗よし2、北川卜仙（柱卜仙）2、壺隠亭常閑2、四楽斎2、田畑ものなり2、手からの岡持2、成笑2、風車2、法橋吾山2、雄珍2、一蛙1、をしへ人1、鬼守1、耆山法師1、北山象安1、黒栖の大小ひかる1、水車1、野見直寝1、針口のいたき1、浮木1、眉長1、里暁（女）1

題中

青木万作（青木のぬし）［上］へづゝ東作歌、［下］から衣橘洲歌］、蛙面坊［下］ふる瀬の勝雄歌］、有政［下］ものことの明輔歌］、市川海老蔵（忌追善）［上］出来秋の万作歌］、焉馬父（所本所、年九十二歳、忌追善）［上］へづゝ東作歌］、荻野先生［上］へづゝ東作歌］、月三師（所石町）［上］へづゝ東作歌］、賀邸（先生）［上］蛙面坊歌、［下］から衣橘洲歌2］、加藤孟竹［上］へづゝ東作歌］、雁奴（所飯田町、忌一周忌）［下］四方赤良歌・から衣橘洲歌］、菊池叔成［上］へづゝ東作歌］、橘洲［上］へづゝ東作歌、［下］四方赤良歌・橘枝歌・馬乳歌・ふる瀬の勝雄歌］、

橘洲妹（忌十七回忌）［下］ふる瀬の勝雄歌］、雲助（赤良甥）［下］から衣橘洲歌］、湖竜斎（業絵師）［上］あけら菅江歌］、五陵（所泉町）［上］へづゝ東作歌］、金春八左衛門［上］樋口氏歌］、祝あみた仏（業絵師）［上］あけら菅江歌］、常閑（業膏薬商）［下］葉多の黒つら歌］、荘万字［下］三畳のたゝ見歌］、曽江［下］から衣橘洲歌］、大膳亮好［上］へづゝ東作歌］、竹本住太夫［下］四方赤良歌］、谷風梶之助（業力士）［下］四方赤良歌］、茶屋四郎次郎［下］四方赤良歌］、陳寿三（業本草家）［上］樋口氏歌］、土山ぬし［下］四方赤良歌］、ねりかた［上］もとの木あみ歌］、浜辺黒人（浜辺某、黒人）［上］椿軒歌・蛙面坊歌、［下］ものことのうとき歌・ふる瀬の勝雄歌・から衣橘洲歌］、半大夫（業江戸節語り）［上］渭明歌］、文竿［上］けいせうならん歌］、卯雲（所下谷）［下］四方赤良歌］、宝生九郎妻［上］樋口氏歌］、政太夫（忌十七回忌）［下］四方赤良歌］、文字六（業豊後節語り）［下］四方赤良歌］、もとの木あみ（木あみ・もくあみ・もくあみた仏・はりかね、嵩松、所西の久保、所かやは町、所かはらけ町）［上］あけら菅江歌2・けいせうならん歌・へづゝ東作歌5、［下］四方赤良歌・ふる瀬の勝雄歌・から衣橘洲歌4］、山下金作［上］へづゝ東作歌］、四方の赤良（赤良、寝惚子）［下］から衣橘洲歌3］、来禽堂［上］けいせうならん歌］、楽庵（所茅場町）［上］へづゝ東作歌］、寥和（業俳諧師、忌一周忌）［上］へづゝ東作歌］

10 万載狂歌集【万載】　天明三年正月・刊本

底本は大妻女子大学蔵半紙本十七巻（巻十三欠で実質十六巻）二冊。原題簽は第一冊目「万載狂歌集四季 離別 羈旅 哀傷」、第二冊目「万載狂歌集 賀 恋 雑 釈教 神祇」、内題「万載狂歌集」。朱楽菅江序文によれば四方赤良と菅江の共編だが、実際は赤良の編であろう（もっとも『割印帳』には朱楽菅江著とある）。構成は序文二篇（各二丁、ただし第一丁目表白紙）四丁、本文（第一冊目は四季〈春と秋は各二巻分〉・離別・羈旅・哀傷の順に巻第九まで四十五丁、第二冊目は賀・恋〈二巻分〉・雑〈二巻分〉・釈教・神祇の順に巻第十七まで〈ただし巻数を誤っており、巻第十二の次

が同十四となっている〉四十九丁）九十四丁、漢文後序一丁、跋文一丁、奥付半丁、以上（上巻四十九丁、下巻五十一丁半）全一〇〇丁半。序文二篇はそれぞれ末に「あめあきらかなる宝引のなはもひとふたみつのとしはるのはしめのうら、かなる四方赤良しるす」、「天明みつのとしはるの日のながゝとゑらひ終れるになんありける／朱楽菅江」。漢文後序は末に「四方山人等序」、跋文は末に「橘のやちまたかのふる事しかり」。奥付「天明三癸卯歳孟春吉日／京都柳馬場四条下ル所　本家／須原屋仕入店／大坂心斎橋筋順慶町／柏原屋与左衛門／東叡山下池之端仲町／須原屋伊八板」。奥付三書肆名上余白に広告「徳和歌後万載集　近刻／狂歌選　哥仙家集に比して三十六家の秀逸　嗣出」。柱は第一冊目「序　〇一（～四）」、「〇一（～六、七ノ八、九～四十六）」、第二冊目「〇四十七（～九十五、ナシ、ナシ）」。後印の早稲田大学中央図書館本（人名に関する初印との相違は、入集者名「祝阿」が「祝阿弥」となっているのみ）を底本とした翻刻が『江戸狂歌本選集』第一巻（本作担当宇田敏彦氏、平成十年、東京堂出版）に収まる。なお本書では狂歌のすぐ後に説明文を付すものがあるので、その説明文中の人名をも便宜上「題中」に採録した。

編者　四方赤良・朱楽菅江

序者　四方赤良

序者　朱楽菅江　　**序中**　行風、四方のあか良

跋者　四方山人等

跋者　橘のやちまた

狂歌　内訳　55首1人、37首1人、36首1人、32首1人、30首1人、28首1人、25首1人、19首1人、17首1人、14首1人、12首1人、11首1人、9首2人、8首1人、7首2人、6首3人、5首8人、4首9人、3首18人、2首33人、1首141人、以上229人711首とよみ人しらず37首

四方赤良（四方あから）55、平秩東作（へつ、東作）37、唐衣橘洲（から衣橘洲、から衣きつ洲）36、布留田造（平郡実柿、平郡実かき、平郡さね柿、池田正式、所和州郡山）32、あけら菅江（朱楽菅江）30、もとの木あみ（もとのもく網、もとのもくあみ）28、卯雲25、山手白人19、樋口関月17、藤本由己14、臍穴主（臍穴ぬし）12、未得11、智恵内子（ちゑの内子、ちゑのないし）9、浜辺黒人9、如竹8、紀定丸7、嚢庵鬼守7、軽少ならん（けい少ならん）6、志月庵素庭6、峰松風6、蛙面坊5、燕斜5、大根太木5、橘貞風5、知真5、柏筵5、一文字白根5、栗山5、内匠半四郎4、貞徳4、馬蹄4、藤満丸（藤のまん丸）4、星屋光次4、物事明輔（物ことの明輔）4、猶影4、雄長老4、油煙斎（由縁斎）4、荒木田守武3、石部金吉3、大井のむさと（大井無作登）3、紀野暮輔3、くさやの師鰺（くさやのもろあぢ）3、子子孫彦3、坂上竹藪3、酒上ふらち（恋川春町）3、算木有政3、鹿津部真顔3、祝阿3、竹杖為軽（竹杖すかる、森羅万象）3、地口有武3、婆阿3、秦玖呂面（秦久呂面、秦久呂つら）3、古せ勝雄（古せかつほ）3、無銭法師3、山岡明阿3、一之2、烏暁2、梅人2、浦辺干網2、雲楽斎2、奥政2、面梶似足2、かくれん坊目隠2、貸本人和流2、紀廸2、暁月坊2、小鍋みそうづ（小鍋のみさうづ）2、佐倉はね炭（さくらのはね炭）2、沢辺帆足2、寿徳2、杵庵2、青陽2、拙堂法師2、好原真図伎（好原万図伎）2、玉簾小亀2、茶屋町末広2、中台翁2、筑波根峰依2、東里2、花道つらね（五代目市川三升）2、腹可良秋人2、風来山人2、浮亀庵巻阿2、卜養2、山岡元隣2、栗梢2、隣海法師2、芦葉2、秋山玉山1、腮長馬貫1、朝寝昼起1、油杜氏ねり方1、伊田可竹1、岩手宗也1、梅旭1、雲鯉1、燕子1、王子詣のきつね1、大坂屋かね女1、太田茂弘1、大原久知為1、大家裏住1、おちよ1、おはりやゑい女1、風早ふり出し1、雅貞1、加藤道喜1、かね女1、かべの中塗1、加保茶元成1、川井物梁1、川長1、関叟1、観流斎原富1、鬼窟採瘤1、菊の声色1、北川卜仙1、きねや仙女1、紀のうら人1、紀海音1、紀のたらんど1、紀のつかぬ1、久敬1、漁産1、魚躍1、空二1、黒染こもん1、慶紀逸1、業寂僧都1、呉竹1、古梅園道恵1、五風1、紺屋麻手

1、さくらん坊1、酒上熟寝1、三畳たゝ見1、塩屋から人1、滋野瑞竜軒1、四交1、志道軒1、師の坊1、志水つばくら1、十二立圃1、寿角1、朱友達1、静観坊1、樵山1、小祐1、松良1、信海翁1、隅田中汲1、碩賢1、雪級1、荘夢1、楚堂1、大経師文しろ1、大の鈍金無（蓬萊山人帰橋）1、高保1、田中文起（竹本住太夫）1、俵の小つち（大黒屋庄六）1、丹青洞1、地黄坊樽次（六位大酒官）1、近松門左衛門1、長義1、塵毛あた多1、通小紋息人（市川升蔵）1、月夜釜主1、恒子1、鶴岡芦水1、亭々1、手柄岡持（喜三二）1、出来秋万作1、田阿1、兎十1、とめ女1、鳥山石燕1、長つぐ1、なる子1、二朱判吉兵衛1、ぬい女1、梅仙法師1、葉十1、畑野あぜ道1、白駒1、浜虎坊鶏子1、早鞆和布刈1、針口いたき1、坡柳1、盤斎法師1、晩秋1、坂東五十夢1、板元伊八1、百庵1、富士鷹なす1、不自由物なし1、節蕖中貫1、文莫女1、北窓翁一蝶1、木端1、星定つぐ1、星直つぐ1、星野氏かね女1、細井翁1、本阿弥柳夫1、松屋てつ女1、三千風1、三井嘉栗1、三保女1、目黒粟餅1、物部のうとき1、物部早秋1、八百屋半兵衛1、安井了忠1、やのくらのいろくす1、藪中椿1、藪本医止成1、山田僧都1、遊女たが袖1、吉田氏1、よみ人しれ多1、万の千里1、来示1、懶翁1、蘭水1、栗柴1、隣鶴1、六誹園立路1、早稲田の翁1、和文1、よみ人しらす37

題中

あけらかんこう［八］業寂僧都歌］、荒海（業力士）［四］芦葉歌］、ゑひら（業新吉原ゑひ屋遊女）［十一］四方赤良歌］、大根太木（忌一周忌）［九］四方赤良歌］、音阿弥（所秋の、道場）［十五］から衣橘洲歌］、風早のふり出し（神並周全、業医師）［十五］四方赤良歌］、月三師（所石町）［六］平秩東作歌］、から衣橘洲［五］へつ、東作歌］、きさかた（業新吉原大びしゃ遊女）［十一］大の鈍金無歌］、自得翁（四方赤良父、祝六十一）［十］智恵内子歌］、祝阿弥［十六］師の坊歌］、勝春（業絵師）［十四］菊の声色歌］、白壁（業絵師）［十一］山岡明阿歌］、酔月楼［五］四方赤良歌、七田中文起歌］、須原の迂平［八］業寂僧都歌］、雪級（所田町）［十四］あけら菅江歌］、竹本住太夫［七］四方赤良歌］、谷風梶之助（業力士）［四］四方赤良歌、［十五］あけら菅江歌］、ちゑの内子［七］へつ、東作歌］、

千代（業白拍子）［五四方赤良歌］、とせ（業白拍子）［五四方赤良歌］、富本豊前大夫［十四地口有武歌］、豊きく（業富本豊前大夫弟子）［十四地口有武歌］、豊くに（業富本豊前大夫弟子）［十四地口有武歌］、豊松（業富本豊前大夫弟子）［十四地口有武歌］、豊みつ（業富本豊前大夫弟子）［十四地口有武歌］、ねつき（業俳諧宗匠）［十四百庵歌］、柏筵（忌追善）［九よみ人しらす歌］、花道のつらね［十五柏筵歌・四方赤良歌］、樋口関月［十五秋山玉山歌］、広沢翁［十五東里歌］、文麗（忌追善）［九卯雲歌］、へつ、東作（東作）［七四方赤良歌、十三井嘉栗歌］、へつ、東作妻（忌追善）［九へつ、東作歌］、宝生九郎妻（忌追善）［九樋口関月歌］、望汰欄（所洲崎）［二あけら菅江歌］、三井長年（三井嘉栗）［七あけら菅江歌・へつ、東作歌］、もとのもくあみ［七へつ、東作歌］、柳生くらの介（忌追善）［九藤本由己歌］、山崎宗鑑［十五よみ人しらす歌］、山下金作（業役者）［十一本阿弥柳夫歌］、山手白人［一へつ、東作歌］、由縁斎貞柳［九紀海音歌］、百合女（所京祇園）［十五よみ人しれ多歌］、四方赤良［五卯雲歌、八業寂僧都歌、十智恵内子歌、十四けい少ならん歌・祝阿歌］、利休［十五よみ人しらす歌］